
スマブラ！～逃走中～
SBX

暁～小説投稿サイト～ By 肥前のポチ

<http://www.akatsuki-novels.com/>

注意事項

このPDFファイルは「暁く小説投稿サイトく」で掲載中の小説を「暁く小説投稿サイトく」のシステムが自動的にPDF化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「暁く小説投稿サイトく」を運営する肥前のポチに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スマブラ！く逃走中く

【作者名】

S B X

【あらすじ】

任天堂オールスターが逃走中に挑戦!?

ヤマブキシティを舞台に賞金獲得を目指し、ハンターから逃げ回れ!

逃走者紹介

第一回～逃走中～

ゲーム参加者データ……

マリオ（スーパーマリオブラザーズ）

【ミスター任天堂。初参加ながら目指すは逃走成功】

ルイージ（スーパーマリオブラザーズ）

【マリオの弟。まだ始まってもないのにハンターにビビりまくる】

ドンキーコング（スーパードンキーコング）

【バナナ大好き。ジャングルで鍛えられたフットワークを生かせるか】

ヨッシー（ヨッシーストーリー）

【のんびり屋のスーパードラゴン。どこまで踏ん張れるか】

リンク（ゼルダの伝説 時のオカリナ）

【ハイラルの勇者。マリオと同じく目標は逃走成功のようだ】

カービィ（星のカービィ）

【食いしん坊のピンク玉。グルメレースで見せた俊足を発揮できるか】

ピカチュウ（ポケットモンスター赤・緑）

「ポケモンを代表するキャラクター。素早い動きでハンターを振り切れるか」

プリン（ポケットモンスター赤・緑）

「風船ポケモン。歌って眠らせることは出来ないが、果たして……」

サルス・アラン（メトロイド）

「バウンティハンター。女性ながら、かなりの意気込みだ」

フォックス・マクラウド（スターフォックス64）

「スターフォックスのリーダー。賞金は借金返済に注ぎ込むようだ」

キャプテン・ファルコン（F-ZERO）

「賞金稼ぎのレーサー。参加者の中では、ずば抜けて足が速い」

ネス（MOTHER2 ギーグの逆襲）

「超能力少年。能力は使えない分、勇気と行動力でカバーする」

以上12名、登録完了……

くオープニングく

くオープニングく

人気の無くなった大都会『ヤマブキシティ』

その中央にそびえ立つ巨大ビル『シルフカンパニー』

その前に集められた12人の逃走者達。

彼等の目的はただ一つ……それは逃げること。

「ついに始まるぞー!!」

気合十分のミスター任天堂・マリオ。

「いつもやってる大乱闘とは全然違いますけど……」

剣も盾も無く、違和感を感じているリンク。

「みんなで絶対逃げ切ろうね！」

ゲーム開始前に皆を激励するカービィ。

「「よし！」「」

その声を機に、12人の逃走者たちが一斉に街中へ駆け出した。ゲーム開始前に逃走者達は、1分間の逃げる猶予が与えられる。

「俺の巨体じゃ不利だからな。何処か安全に隠れられる場所を見つけないと……」

コンゴジャングルの王者ドンキーコング。大柄なため、動き回るのはかなり不利だ。

「1分なんてあっという間よね。なるべくスタート地点から離れたいわ」

バウンティハンター、サムス・アラン。パワードスーツを着ているが、動きは軽快だ。

「もうそろそろか。レースよりも何かドキドキするな！」

1分が経ち、ゲームが始まった……。

「60:000」

「59:59 300」

「59:58 600」

シルフカンパニーの正面扉が開き、中から二体のハンターが駆け出す。

「うわぁ〜……ついに始まったぁ」今にも泣き出しそうな緑の人気者・ルイージ。

「スゴいスゴい！ もう9000円になったよ。もうお菓子いっぱい買える！」

ハンターから逃げた時間に応じて賞金を獲得できる。

それが……「run for money」逃走中〜

舞台は「ポケットモンスター」のヤマブキシティ。

水路、建物内、シティ外には逃走不可。広さはおよそ東京ドーム3個分。

このエリアを12名の逃走者が逃げ回る。

制限時間は60分。賞金は1秒毎に300円ずつ上昇し、最後まで逃げ切れば、108万円を手に来る。

しかし途中でハンターに確保されれば賞金はゼロ。ゲーム失格となってしまう。

「ハンター怖いなあ。油断したら僕でも追い付かれそうだよ。ここホームグラウンドなのに……」

ハンターはスプリンターの脚力とマラソンランナーの持久力を併せ持つアンドロイド。

たとえ相手がポケモンであろうと、逃げ切るの容易ではない。

「いざとなったら自首も出来るんだよね。……で、ですよねスタッフさん？」

なお、このゲームは自首も出来る。

エリア内に設置された自首用電話で自首を伝えれば、それまでの賞金を獲得し、ゲームからリタイア出来る。

「自首は無いな。賞金もそうだが、【逃走中】だからな。男なら逃げ切ってやるぜ」

F I Z E R O レーサーのキャプテン・ファルコン。足には相当の自信があるようだ。

「自首は出来ればしたくない。グレートフォックスの修理代諸々がなあ……………」

雇われ遊撃隊も、金には敵わない。

「賞金手に入れたら…………スマブラのメンバー集めてコンサート開きます！」

「ー皆さん眠っちゃいませんか？」

「…………み、耳栓をしてもらえれば大丈夫です！」

本末転倒だ…………。

「うん。ここが良いな」

ヤマブキシティの建物の隙間に潜むドンキーコング。

良い隠れ場所を見つけたようだ。

「デイディーに絶対勝つからって言ったからな。兄貴分としてカッコいいところを見せたいんだよ」

「ー賞金は何に使いますか？」

「バナナ…………と言いたいが、ジャングルの仲間と相談かな？」

ハンターに確保されれば賞金はゼロ。ゲーム失格となってしまう。

「……ッ!? 今ハンターさんいましたね……!」

ハンターを目撃したヨッシー。急いでその場から遠ざかる。

「ハアハア、ハンターさん怖いですね。乱闘とはまた違う緊張感があります」

ハンターは神出鬼没。何時、何処から現れるか分からない。

「55:00 90,000」

「54:59 90,300」

「54:58 90,600」

「5分経過でもう9万円。うわ、何か興奮するなあ」

ニヤニヤが止まらないミスター任天堂。

「目標は勿論逃走成功なんだけど、心配なのがね。我が弟なんです
よ」

「兄さんは108万円目指すって言ってましたけどね、正直10万円でも大金な気がするんですよ僕にとっては」

「自首……するかなあ。「ルイージマンション」でテレサ相手にもかなりビビってたし、今回相手ハンターでしょ？」

「怖くなったらもう自首します。ええ、後はもう兄さんにお任せします」

「自首しそうだなあ……早々に」

弟が心配な兄と……

「出来れば自首用電話の近くに隠れておきたい。いざって時のために」

兄に任せる気満々の弟。そんな彼の前に……。

「ーッ!? うわっ! ハンターッ!?!」

ハンター、Lock On

「速い……ッ！ 速……ッ！」ポン

油断大敵だ……。

「うわ……ゴメン兄さん」

P i P i P i P i P i P i

「ッ！？ ビックリした。ハイラルにこんな物無いから変な感じですね」

メールだ……。

「確保情報……ポケモンセンター付近にて、ルイージ確保！」

「逃走者の人数はこれで11人となった。早いな」

「まだ5分ちょっとしか経ってないのに……もうルイージ君が捕まるなんて」

逃走者への確保情報、通達は全員に支給された携帯電話で伝えられる。

「ルイージ……視聴者の皆さん、我が弟が一番に捕まりましたよ。何かゴメンなさいホント」

残る逃走者は、
11人……。

くミッション1く

くミッション1く

「逃げる自信はあるんだが……警戒しておくに越したことはないな」

雇われ遊撃隊「スターフォックス」のリーダー、フォックス・マク
ラウド。

周囲を警戒し、ハンターの不意打ちに備える。そこに……

「よっ、フォックス！」

「ーッ！ 驚いた、ファルコンか」

キャプテン・ファルコンだ……。

「早速ルイージが捕まっちゃったな」

「ああ。まだ5分ちょっとしか経ってなかったのに」

「お互いハンターには気を付けようぜ。まあ俺とお前ならそう簡単には捕まらないと思うけどな」

「そうだな。互いにな」

お互いの逃走成功を願い、その場を別れる2人。

「ファルコンの奴……警戒心無さ過ぎるだろう。あんな堂々と歩いて」

「このメンバーで最後まで残るとしたら、俺はフォックスとピカチユウに2人だと思っただよ。勿論俺も逃げ切るけどな」

最初から自信満々の男。そんな男の近くに……。

『……………』

ハンターが接近。

「——ッ!? 来た来たッ!!!」

見つかった……………。

「俺の足を舐めるなよ!!!」

『……………』ピ—————

ハンターは視界に入った標的を見失うまで追跡する。

曲がり角等を利用しなければ、逃げ切るのは容易ではない。

「声がする……ファルコンの奴、見つかったな」

ファルコンの声を聞き、建物の影に急いで隠れるフォックス。巻き添えはご免だ。

一方、逃げ回るファルコンは――

「ハアハアハア……危ねえ」

どうやら撒いたようだ。

[5 0 : 0 0 1 8 0 , 0 0 0]

[4 9 : 5 9 1 8 0 , 3 0 0]

[4 9 : 5 8 1 8 0 , 6 0 0]

「ハンターは今のところ二体なのよね。これ以上増えたりするのかしら……」

バウンティハンターのサムス・アラン。プリンと並ぶ女性プレイヤ―だ。

数々の戦いで養われた勘を、逃走中で発揮できるか。

「二体でも開始早々ルイージ君が捕まるんだもん。これ以上増えたら堪らないわ」

P i P i P i P i P i P i

「ああもう、静かにしてってば！」

メールだ……。

「えっと、ミッション1。『君達の腰に付いている装置は時限アラームだ』えっ!？」

「『残り40分になるとアラームが起動し、周囲のハンターを呼び寄せる』おいおい……」

「『解除するには他の逃走者が持つカードキーを認証させなければならぬ。認証は何回でも可能だ』このことですか？」

【ミッション1：時限アラームを解除せよ】

逃走者の腰に付けられた装置は、残り時間40分になると起動。アラーム音が鳴り響けば、近くのハンターを呼び寄せてしまう。

解除するには他の逃走者が持つカードキーを認証させなければなら
ない。

認証は何度でも可能。解除しなければ、逃げ切るのはほぼ不可能だ。

「これは早く解除しないとダメですね。誰か近くにいないかな？」

「くっそー！ 隠れていた俺には嫌なミッションだ。誰か近くを
通らないかな？」

時限アラームを解除するため、逃走者全員が動き出す。
しかし動き回ればハンターに見つかるリスクも高まる。

「あっ、マリオーッ！」

「ピカチュウか。こっちこっち」

偶然近くにいたマリオとピカチュウ。

カードキーを手に持ち、2人が駆け寄る。

「これを通せば良いんだよね？」

「そうそう。早くやろう」

「「せーのっ!」「ピッ!

【ミッションクリア：マリオ、ピカチュウ】

「やった! これで僕等は一先ず安心なんだね」

「ああ、よかったよピカチュウが近くにいて」

2人がミッションをクリアしている頃――

「リンク、リンクだ」

「あそこにいるのは……カービィですね。良かった仲間にあえて」

【ミッションクリア：リンク、カービィ】

運良く近くにいた逃走者同士、ミッションをクリアしていく。

クリアしなければ、アラーム音が鳴り響き、ハンターを呼び寄せしてしまう。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
http://www.akatsuki-novels.com/stories/index/novel_id~13073

スマブラ！～逃走中～

2015年05月31日 21時55分発行